

学年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)・課題(△)
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・つくる方法や順番がわからない。 ・自分の活動に自信がもてない。 ・身近な自然や人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作例や見本を示し、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げる。 ・自分のイメージをもつための十分な時間を保障する。 ・体全体をつかいながら材料とかかわる題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作例や見本を示すことで、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げることができた。 △十分な時間を保障するだけでなく教師の言葉かけや友達の活動を鑑賞することが必要である。 ○造形遊びの授業で主体的に石や葉などの材料とかかわる姿が見られた。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・つくる方法や順番がわからない。 ・自分の活動に自信がもてない。 ・身近な自然や人工物を基に思い付いてつくる体験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作例や見本を示し、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げる。 ・自分のイメージをもつための十分な時間を保障する。 ・体全体をつかいながら材料とかかわる題材を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作例や見本を示すことで、活動の見通しをもち、自分のイメージを広げることができた。 △十分な時間を保障するだけでなく教師の言葉かけや友達の活動を鑑賞することが必要である。 ○造形遊びの授業で主体的に石や葉などの材料とかかわる姿が見られた。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しがもてない。 ・途中までつくったけれど自分の思い通りにならないとあきらめがちである。 ・既習事項を生かして表現できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者や友達と考えながらつくる。手順を細かく分けて考えるよう指導する。 ・計画的な造形体験を積み、技能の定着を図る。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者や友達と考えながらつくることで、同じ材料でも新しい形がつけられる経験がすることができた。 ○布や針金など多様な材料の使用法を経験することができた。 ○振り返りを導入時に行うことで、表したいものに応じて経験した技法を選択できる児童の姿が見られた。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しがもてない。 ・途中までつくったけれど自分の思い通りにならないとあきらめがちである。 ・既習事項を生かして表現できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者や友達と考えながらつくる。手順を細かく分けて考えるよう指導する。 ・計画的な造形体験を積み、技能の定着を図る。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導者や友達と考えながらつくることで、同じ材料でも新しい形がつけられる経験がすることができた。 ○布や針金など多様な材料の使用法を経験することができた。 ○振り返りを導入時に行うことで、表したいものに応じて経験した技法を選択できる児童の姿が見られた。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない。自分の感覚を通して形や色などを捉えることができない。 ・既習事項を生かして表現できていない。 ・自身の作品や活動に満足していない。自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る視点がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に授業に参加できる導入の工夫。体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・自分や友達よさに気付くよう教師が言葉かけを行う。鑑賞活動の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚を通して形や色などをとらえるように意識させる導入や、技法を選択する場面を多く設定することで主体的に活動できる児童が多く見られた。 ○鑑賞の活動では、形や色をもとに自分の考えを述べられるよう造形的な視点を設定した。その結果、感じたことと形や色を合わせて考えられる児童の姿が見られた。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができない。自分の感覚を通して形や色などを捉えることができない。 ・既習事項を生かして表現できていない。 ・自身の作品や活動に満足していない。自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見る視点がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に授業に参加できる導入の工夫。体験的な学びから自分のイメージがもてるようにする。 ・表したいものに応じて経験した技法を選択できるようにする。 ・自分や友達よさに気付くよう教師が言葉かけを行う。鑑賞活動の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感覚を通して形や色などをとらえるように意識させる活動や、技法を選択する場面を多く設定することで主体的に活動できる児童が多く見られた。 ○鑑賞の活動では、形や色をもとに自分の考えを述べられるよう造形的な視点を設定した。その結果、感じたことと形や色を合わせて考えられる児童の姿が見られた。